

会員各位

一般社団法人 日本熱処理技術協会
編集委員会 委員長 江村 聡

会誌「熱処理」投稿規程・執筆要項の改訂のお知らせ

平素は日本熱処理技術協会の活動をご支援いただき誠にありがとうございます。このたび会誌「熱処理」の投稿規程および執筆要項を改訂いたしましたので新しい投稿規程・執筆要項を掲載いたします。主な改訂箇所は以下の通りとなります。

投稿規程：

- ・会誌「熱処理」に掲載された和文論文は掲載後2年以内であれば英訳して Materials Transactions 誌 (MT 誌) に投稿できる、という規程があります。今回 MT 誌に掲載された英文論文 (和文論文の英訳でないもの) は掲載後2年以内であれば和訳して会誌「熱処理」に投稿できる、という規程を新設いたしました。なお本規程が適用される英文論文は日本熱処理技術協会を通じて MT 誌に掲載された論文のみといたします。
- ・MT 誌に投稿する際には投稿審査システムを利用することを明記いたしました。

執筆要項：

- ・句読点の表記について明記いたしました (句点は「。」(全角)、読点は「,」(全角))。
- ・参考文献の表記方法 (姓名の表記順等) について、他学協会誌の表記順等に合わせました。

会誌「熱処理」に投稿いただくことで、熱処理に携わる方々や熱処理の前後工程や関連分野で仕事をされている方への有効な情報発信の機会となります。また優秀な内容を持つ論文 (学術論文, 技術論文), 口絵にはそれぞれ論文賞、口絵写真賞を春季講演大会にて授与しています。多くの方々より記事を投稿いただき、会誌「熱処理」を有効活用いただくとともに、会誌「熱処理」および熱処理技術分野の活性化にお力をお貸しいただければ幸いです。

今回改訂いたしました投稿規程, 執筆要項は一般社団法人日本熱処理技術協会のウェブサイトの「会誌 (投稿要領)」(下記 URL) に掲載いたしますのでご参照下さい。

<http://www.jsht.or.jp/journal/>

「熱処理」投稿規程

1. 本会の正会員、学生会員、外国会員もしくは名誉会員は本会会誌「熱処理」に投稿することができる。連名の場合、少なくとも1人は本会の正会員、学生会員、外国会員もしくは名誉会員でなければならない。
2. 編集委員会で認めた場合、1. の規程によらず本会正会員、学生会員、もしくは外国会員が著者に含まれない投稿も受理する。
3. 投稿は、本会講演大会での発表とは関係なく行うことができる。
4. 原稿は、本会に投稿される前に、他の学協会誌およびこれに類する刊行物に投稿されないものに限る。ただし日本熱処理技術協会を通して **Materials Transactions** 誌に投稿された原著論文については掲載後和訳して「熱処理」に投稿できるものとする（投稿規程 15.を参照のこと）。
5. 原稿の受付年月日は、原稿の到着した年月日とする。
6. 原稿は、熱処理の学術ならびに技術の発展に寄与するものであること。
7. 原稿の執筆は「熱処理」執筆要項によること。「学术论文」、「技術論文」については執筆要項とともに「学术论文」、「技術論文」執筆ガイドラインも参照すること。「自慢の製品・自慢の技術・自慢の研究」については「自慢の製品・自慢の技術・自慢の研究」執筆ガイドラインを参照すること。
8. 原稿には、本会所定の原稿表紙を付けること。（原稿表紙は本会公式ウェブサイトの「会誌」投稿規程 8.より取得するか、本会事務局に請求のこと。）原稿は原稿表紙の裏面に記載されたテーマ別に分類し、原稿表紙の分類欄に分類記号を付すこと。本会講演大会にて発表した内容を「熱処理」に投稿する場合、原稿表紙に発表に関する情報を記載すること。
9. 原稿には、投稿内容が投稿規程、執筆要項、執筆ガイドラインに沿っていること、「学术论文」、「技術論文」については著者の原著論文であり他の刊行物に未投稿であること（多重投稿でないこと）を確認するため、投稿原稿内容確認シートを添付すること。（確認シートは本会公式ウェブサイトの「会誌」投稿規程 9.より取得するか、本会事務局に請求のこと。）

10. 著者は、下の表にしたがって原稿を提出する。

投稿区分	学術論文	技術論文	技術解説	技術資料	口絵
刷り上り ページ	6 ページ以内	6 ページ以内	6 ページ以内	6 ページ以内	2 ページ以内
文字相当数	約 15,800 文字	約 15,800 文字	約 15,800 文字	約 15,800 文字	約 4,600 文字
本文	2 部*	2 部*	1 部	1 部	1 部
和文概要 英文概要	275 字程度 200 語程度	275 字程度 200 語程度	不要	不要	不要
図	2 部*	2 部*	1 部	1 部	1 部
表	2 部*	2 部*	1 部	1 部	1 部
写真	2 部* (鮮明なもの)	2 部* (鮮明なもの)	1 部 (鮮明なもの)	1 部 (鮮明なもの)	1 部 (鮮明なもの)
キャプション 一覧表	2 部*	2 部*	1 部	1 部	1 部

*電子ファイルで提出する場合は各 1 部で可

「自慢の製品・自慢の技術・自慢の研究」は刷り上り 1 ページ。

- ・1 ページ目はタイトル、著者名等記載のため約 1,000 文字分少なくなる。
- ・特に編集委員会で認めた場合に限り、上記ページ数を超える事を許可する。

11. 投稿された原稿は、編集委員会で査読し、掲載の可否を決定する。編集委員会は原稿の修正および加筆を求めることができる。この場合、編集委員会の指定する返却日を過ぎて再提出されたものは、新規原稿とみなす。
12. 他の著作物から図、表、文章などを転載する場合には、それらの著作権者の許可を、著者が得るものとする。
13. 掲載された記事の著作権は、受理年月日から本会に帰属する。
14. 「熱処理」に掲載された論文は、掲載日から2年以内であれば英訳して *Materials Transactions* 誌に投稿できる。本会を通して *Materials Transactions* 誌に投稿する場合、英訳論文を *Materials Transactions* 誌の投稿の手引きや執筆要項に従って執筆するのではなく、本会の投稿規程や執筆要項に従って執筆し、*Materials Transactions* 投稿審査システム (ScholarOne Manuscripts) を通じて投稿すること。投稿の際は投稿先として「The Japan Society for Heat Treatment」を選択すること。

URL: <https://mc.manuscriptcentral.com/matertrans>

15. 「熱処理」や他の学協会誌、刊行物等に投稿されていない原著英文論文を日本熱処理技術協会を通して *Materials Transactions* 誌に投稿することもできる。この場合は14.と同様に *Materials Transactions* 投稿審査システムを通じて投稿すること。日本熱処理技術協会を通して *Materials Transactions* 誌に掲載された論文は、掲載日から2年以内であれば和訳して「熱処理」に投稿できる。
16. 学術論文及び技術論文の別刷は有料として最低50部以上購入するものとし、本会で準備した後日請求する。50部以上必要な場合は著者校正時に同封する所定の申込み用紙により本会へ申込むこと。価格は以下の表に示す。ただし、編集委員会で認めた場合には別刷購入の義務を課さない。

投稿区分	口絵	学術論文、技術論文、技術解説、技術資料	
刷り上りページ	2ページ	4ページ以内	5～6ページ
50部	¥10,000	¥25,000	¥30,000
100部	¥12,000	¥30,000	¥35,000

150 部	¥14,000	¥35,000	¥40,000
200 部	¥16,000	¥40,000	¥45,000

口絵はアート紙を使用する。(ただし、表紙は付かない。)

投稿規程の 6 ページを超える場合は、2 ページ毎に¥10,000 を加算する。

なお、割付けの都合で規程の 6 ページを超えた場合は、この限りではない。

17. 「自慢の製品・自慢の技術・自慢の研究」の内容が企業の宣伝、自慢の場合の投稿は有料(¥80,000)とする。

18. カラーページ(口絵を除く)は実費負担する(1 文献につき¥32,000)。ただし、編集委員会で認めた場合には実費負担の義務を課さない。

投稿区分

学術論文：熱処理(材料と表面の改質)の技術に関する、著者の独創になる学術および技術の成果を記述したもの。

技術論文：熱処理(材料と表面の改質)に関連する材料、方法、設備、管理などにおける実施の状況、結果について記述したもの。

技術解説：熱処理(材料と表面の改質)およびその周辺技術について解説したもの。

技術資料：熱処理(材料と表面の改質)およびその周辺技術について主としてデータを呈示したもの。

口 絵：熱処理(材料と表面の改質)あるいはそれに関連する技術により形成された材料の組織とその生成過程を記述したもの。

自慢の製品・自慢の技術・自慢の研究：

熱処理に関する自慢の製品、技術あるいは研究を紹介、宣伝するもの。

(2021 年 6 月 11 日改訂)

「熱処理」執筆要項

1. 原稿は、原則 Word 版で A4 版の白紙を用い、短辺を上下側にして横書きとする。英数字は半角文字を使用する。
2. 審査終了後は、図、表、写真は使用 OS、ソフトウェア、そのバージョン等を明記した修正済電子データを、本文については修正済み Word 版ファイルを提出する。
3. 図、表、写真は、本文中に挿入せず別紙とし右下隅に著者名を記入する。挿入位置を本文用紙右側の余白に指定する。カラー印刷に要する費用は、著者の実費負担とする。ただし、編集委員会が特に認めた場合には無料とする。
4. 刷り上がり 1 ページは、2,800 字に相当する。図面 1 枚(縦約 10cm、横 7cm、図、表題、説明を含む)は平均して、600 字に相当する。ただし、1 ページ目はタイトル、著者名等記載のため約 1,000 文字分少なくなる。
5. 原稿は刷り上がり 6 ページ程度を原則とする。ページ数を超える場合は、分割投稿・縮小再投稿をお願いすることがある。
6. 題目は、簡潔で本文の内容、特徴を最も良く示したものでなければならない。また、5 語句程度の英文キーワードを付記する。
7. 概要は、和文と英文の 2 種類を併記すること (J-STAGE 対応)。困難な場合は、事務局まで相談のこと。
8. 原稿は、読者が内容を理解しやすいように、平易な文章で書く。旧仮名遣いはさけること。
9. 外来語のうち日本語として定着した語は、片仮名で表記する。ただし、一般に周知していない外来の技術用語は片仮名書きの後、原語を () 内に書き添える。
10. 術語は、原則として JIS G0201(鉄鋼熱処理用語)、JIS B6905(金属製品熱処理用語)および関連学会で規定されているものを用いる。なお、その他の用語については、通常用いられている用語を用いる。
11. ローマ字、ギリシャ文字、他と混同されやすい字などは、印刷に当たって間違いを起こさないように明瞭に書く。その文字の直上に、大文字を示すとき「大」、小文字を示すとき「小」、ギリシャ文字を示すとき「ギ」などと、赤字で記号を付けることが望ましい。
12. 数字は、数量を表すときはアラビア文字とする。小数点については 1.02 のように書き、1,02 とはしない。
13. 句読点について、句点は「。」(全角)、読点は「,」(全角)を使用すること。
14. 章、節、項の表示は、次のようにする。
 - 章:1
 - 節:1.1
 - 項:1.1.1
15. 単位は JIS による。

16. 数学記号は JIS Z8201 による。

17. 量記号、単位記号および化学記号は、JIS Z8202 による。

18. 参考文献

1) 参考文献には、通し番号を付け、本文の最後の一括して示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号を上ツキ数字で示す。例：○○(1)。

2) 参考文献は、雑誌の場合、著者名(全員)、雑誌、巻数、発行年、開始ページ、終了ページの順に記述する(例 1, 2)。和文誌名は、略記しない。欧文誌名は、国際的慣行にしたがって略記してもよい。(例 2)。同じ巻数の中で通しページのない雑誌の場合には、巻数の後に号数を記入する(例 3)。国際会議等のプロシーディングスの場合、著者名、書名、編者(全員)、出版社、出版地、発行年、開始ページ、終了ページの順に記述する(例 4)。単行本の場合、著者名(全員)、書名、出版社、出版地、発行年、開始ページ、終了ページの順に記述する(例 5)。プロシーディング、単行本の書名はイタリック体で記述する(例 4, 5)。

3) 私信、非公開または一般に入手しにくい文献をあげることは好ましくない。止むを得ずあげる場合には、責任者の氏名および所属機関名を示し、「私信」であることを明記する。(例 6)

例 1: 渋谷佳男, 木村啓造: 熱処理 **24** (1984) 114-120.

例 2: E. Abe, Y. Kawamura, K. Hayashi and A. Inoue: Acta Mater. **50** (2002) 3845-3857.

例 3: 古川敦史, 池田知廣, 岡山竜也: Honda R&D Technical Review **29** No.1 (2017) 84-90.

例 4: N. J. Grant: *High-Strength Powder Metallurgy Aluminum Alloys*, (eds. by M. J. Koczak and G. J. Hildeman, The Metallurgical Society of AIME, Warrendale, PA, USA, 1982) pp. 3-18.

例 5: S. Banerjee and P. Mukhopadhyay: *Phase Transformations*, (Elsevier, Amsterdam, Netherland, 2007) pp. 49-52.

例 6: 渡辺 敏(法政大学 工学部 機械工学科): 私信 (1988).

(2021 年 6 月 11 日改訂)